



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第3巻第5号)

AUTHOR(S):

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第3巻第5号). 泌尿器科紀要 1957, 3(5): 360-360

ISSUE DATE:

1957-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/111446>

RIGHT:

編集後記

第45回日本泌尿器科学会は名大教授三矢辰雄会長の下に開かれた。4月29日評議員会、30日、31日学術大会、4月1日、2日観光旅行であつた。評議員会は例年よりも多くの時間をかけて十分に種々の討議をする事が出来、評議員会らしい情景に接する事が出来た。殊に日本泌尿器科学会規則に関して熱心な意見が交換せられた。次回は熊本市にて会長権原教授の下に行われる事が再確認せられた。

学術大会は2日間に亘り極めて盛会であつた。三矢教授の宿題報告「男性附属性腺の生態病理」は従来から研究の比較的少いこの領域に於て電子顕微鏡、X線撮影法、病理学的検査等によつて多くの新知見を発表せられ、特に精囊のX線映画によつて射精現象を示されたのは独特の研究として敬服した。

宮川正澄教授の特別講演「無菌動物の尿路について」は我々にとつて全く耳新しく、医学の新生面に直面する思いであつた。高橋信次教授の特別講演「X線拡大撮影について」は我々の日常の検査、研究に密接な関連あり、甚だ有益に拝聴した。更に清水圭三助教授の特別講演「泌尿器科に於ける立位レ線撮影法の意義」は多年の研究成果であつて、動脈撮影法、立位レ線撮影法を中心として、血尿、疼痛、蛋白尿等と遊走腎、腎固定術との関係、更に膀胱像に就て明示せられた。

一般演説の演題数は例年よりも多く、終了時間が約1時間延長した程であつた。立派な研究が全国的に行われて居り、本学会も充実していた。出席会員数も丁度よい程度であると思われる。

学会終了後の懇親会は従来にない新趣向にて豪華且つ和気溢るものがあつた。

翌日の観光コースは伊勢路、南志摩への一泊旅行で、約150名が参加した。麦青く椿赤く、海女の風姿を見ることも出来た。三矢教授は健脚であり、清水助教授は盛んに映写せられた。ここまで手厚い世話をせられた佐藤君、その他の名大教室員諸氏の御尽力に対して深く感謝の意を表せずには居られない。懇親会と云い、観光旅行と云い、主催者の御苦労は察するに余りあるが会員にとつてはやはり有難い事である。

購読要項

1. 発行は毎月(年12回)とする。
2. 会員は年間料金を1,000円を前納する。1冊料金100円、払込みは振替口座番号京都 4772番 泌尿器科紀要編集部、或は第一銀行百万遍支店。
3. 入会申込みは氏名(フリガナ)、住所(雑誌郵送先)、勤務先、職地位、自宅開業の別、送金方法を御記入の上編集部宛。

投稿内規

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他。寄稿者は年間購読者に限る。
2. 原稿の長さは制限しないが簡潔にする。
3. 原稿は横書き、当用漢字、平仮名、新仮名使いを用い、片仮名には括弧を要しない。400字詰原稿用紙を用いること。附表、附図はなるべく欧文にすること。
4. 文献の書式は次の如くする。著者名：誌名、巻数：頁数、年次。
例。中野：泌尿紀要、1：110、昭30。Lazarus, J. A. - J. Urol., 45：527, 1941。
5. 300語以内の欧文抄録を記し、之には欧文の標題、所属機関名、ローマ字著者名を付け、なるべくタイプライターを用いること。
6. 掲載料は4頁迄毎頁500円、それ以上の頁、アート頁、図表、写真は実費を申受ける。別冊20部を無料贈呈。それ以上は実費を徴収する。この場合には予め希望部数を申込むこと。特別掲載も考慮する。
7. 校正は編集者が行うが希望により著者校正とする。
8. 原稿送り先は京都市左京区聖護院 京都大学病院 泌尿器科紀要編集部